

人と魚と海のネットワーク
 香川県漁連ホームページ
<http://seaclub.power.co.jp/>
 E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
 TEL 087-825-0350
 FAX 087-851-0699
J F 香川漁連

第34回 放魚祭

去る 7 月 2 5 日 第 3 4 回放魚祭 (主催 : (社) 県水産振興協会・県東部漁連・県漁連・県信漁連・(財) 県水産振興基金) が、新市発足記念イベントとしてさぬき市志度において真鍋県知事、丹羽水産庁瀬戸内事務所長ほか水産関係者約 8 0 名が出席し盛大に開催され、これからの豊漁を祈願してベラ 5 万尾・クロダイ 1 千尾・ヒラメ 5 0 0 尾・タケノコメバル 1 千尾が放流された。また、事前放流として、7 月 4 日東讃地区各漁協地先にクロダイ 2 万 5 千尾を放流した。式典は、志度音楽ホールで行われ厳かな神事のあと主催者および来賓の挨拶があり、続いて県下小・中学生による「水産資源 (稚魚) 愛護に関するポスター・標語作品展」の入賞者 (2 4 人) の表彰状授与が行われた。



(社) 県水産振興協会服部会長挨拶

また、式典終了後、放魚会場のさぬき市役所北側の岸壁で式典出席者のほか地元幼稚園児 5 6 人及び愛護作品入賞の小中学生らが稚魚を放流するセレモニーを行った。同時に、会場に集結していた志度漁協から参加した漁船が



ベラ稚魚を放流する幼稚園児

会場沖合で大漁旗をなびかせ回航し、大漁を祝った他、シャトル号が初めて参加し放魚を祝った。

* 水産資源愛護ポスター入賞者は以下のとおり (敬称略)

香川県知事賞

香川町立浅野小学校 6 年 中条 愛里
 高松市立屋島中学校 1 年 平畑 玲子

香川県議会議長賞

内海町立福田小学校 5 年 大倉 春菜
 高松市立屋島中学校 1 年 宮井 沙織

香川県農林水産部長賞

善通寺市立筆岡小学校 6 年 宮武 志保
 高松市立桜町中学校 3 年 佃 宏子

(社) 香川県水産振興協会会長賞

さぬき市立多和小学校 2 年 奈良 幸与
 牟礼町立牟礼中学校 2 年 松岡 美里

香川県漁業協同組合連合会会長賞

白鳥町立白鳥小学校 6 年 高原 久視子
 高松市立協和中学校 2 年 市原 彩加

香川県信用漁業協同組合連合会会長賞

綾歌町立栗熊小学校 3 年 岡内 梨乃
 高松市立勝賀中学校 1 年 吉田 智美

* 水産資源愛護標語入賞者 (敬称略)

香川県知事賞

白鳥町立白鳥小学校 5 年 吉野 有美
 「見守ろう 元気に泳ぐ 稚魚たちを」
 丸亀市立本島中学校 1 年 木下 舞
 「輝かせ 稚魚の命と 瀬戸の海」

香川県議会議長賞

高松市立上築地小学校 4 年 高橋 真優
 「守りたい 魚とわたしの 青い海」
 仁尾町立仁尾中学校 3 年 兼高 愛美
 「育てよう 小さな魚と あなたの心」

香川県農林水産部長賞

さぬき市立富田小学校 6 年 斉藤 悠佑
 「稚魚たちの 小さな命を 守ろうよ」
 仁尾町立仁尾中学校 2 年 吉田 有希
 「限りある 海の資源を 大切に」

(社) 香川県水産振興協会長賞

坂出市立岩黒小学校 3 年 岩中 まき
「とっちゃダメ みんなのねがい ち魚あいご」
丸亀市立本島中学校 1 年 岡田 亜衣
「稚魚たちは 未来を支える 大きな宝」

香川県漁業協同組合連合会長賞

高松市古高松南小学校 5 年 香西 実菜代
「海の資源 みんなでまもろう 未来のため」
土庄町立土庄中学校 3 年 木曾 杏奈
「人々が 稚魚にたくす 未来の海」

香川県信用漁業協同組合連合会長賞

坂出市立加茂小学校 5 年 細谷 香
「稚魚たちも 力いっぱい 生きている」
丸亀市立本島中学校 1 年 濱野 翔一
「稚魚の群れ 明日に光れ 瀬戸の海」

第四回ジャパン・シーフードショー開催

第 4 回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー (大日本水産会主催) が 7 月 2 4 日から 2 6 日までの 3 日間、東京国際展示場「ビッグサイト」で盛大に開催され、入場者は過去最高の 2 万 4 千名となった。今回は大日本水産会の創立 1 2 0 周年記念事業として、展示とともにセミナーやシンポジウムなど併催イベントも多数行われた。このシーフードショーは、水産ビジネスのための関係者限定のトレードショーとして、国内外のシーフードに加え、水産業を支える製品、新技術などを紹介するもので、出展者数も過去最高の 4 2 0 社・ 6 2 0 小間・ 7 , 0 0 0 品となった。



香川漁連展示コーナーにて商談中

開会式には、出展者、生産者・団体の代表、アメリカ、オーストラリア、ノルウェー、インドなど海外代表も参加し国際色豊かなものとなった。主催者挨拶に立った佐野宏哉大日本水産会会長は、「早いもので第 4 回を迎えることができた。回を重ねるごとに支持を得て拡大し、今回の出展者数は第 1 回目の 2 倍となった。今や水産にかかわるビジネス関係

者の最も充実した商談の場となっている。今回もたくさんの方のビジネスチャンスが得られるものと思う。」と挨拶。

本会からは、東京支所および加工事業部などがハマチ・カンパチ・ヒラメなどのフィーレ、煮干しイワシ、むきエビ、チリメンなどの他、購買事業部からは一夜干しを製造する小型冷風乾燥機「Mr.ホストマン」や海水滅菌装置などを初めて出展し、活発な商談を行った。

香川県かん水組合通常総会開く

香川県かん水養殖漁業協同組合は、去る 7 月 3 1 日漁連会館六階大会議室で第 3 9 回通常総会を開き、嶋野組合長より「魚の安全・安心について消費者の関心が高まっているが、情報開示や養殖履歴の把握など、各単協単位で取り組みを進めてもらいたい」と養殖履歴の明確化に取り組むように呼びかけた。続いて、下川県農林水産部農林水産課主幹、竹沢県漁連代表理事専務からそれぞれ来賓の挨拶があった。

昨年度は、ハマチ・カンパチが全国的な在池尾数の増加、輸入水産物の増加、天然ワラサ・イナダの豊漁などで生産原価を大きく下回り、養殖業者には厳しい状況となった。生産者の顔が見える養殖として「かがわお魚体験ツアー」を実施し、消費者に安全安心を P R した。県魚「ハマチ」など養殖生産物の品質向上では「香川県魚類養殖生鮮物品質向上検討会」で消費者ニーズ把握に努め、2 0 0 1 年版「養殖マニュアル」を策定し、組合員への取り組みを啓発、香川県産魚類のイメージアップに努めた。

今年度事業は、県漁連と連携しながら、全国的な種苗の状況を把握、養殖尾数の適正化や種苗の安定供給に努める。「養殖マニュアル」を検討し、流通に適した魚づくりやブランド化を目指す。生産物価格の安定化を図るため、漁連・全かん水と協力し市場・量販店や消費者との交流会など販売促進をする。J A S 法対策として生鮮食品品質表示基準、水産物品質表示基準に定められた名称・原産地・養殖履歴などの情報を消費者に的確に伝えるため、必要な表示を行い、食品としての信頼性確保に努める。

議長には岡田英二氏 (直島漁協) を選任し、議事に上程された 7 議案はすべて原案どおり可決承認されるとともに、任期満了に伴う役員改選が行われ、理事 1 1 名、監事 3 名が選任され組合長に嶋野勝路氏を再任した。新役員は次の通りです。

代表理事組合長 嶋野勝路

第 一 理 事	松 岡 善 一
理 事	板 坂 利 行
〃	野 崎 勲
〃	松 原 友 一
〃	小 山 良 明
〃	吉 川 喜代治
〃	岡 田 俊 二
〃	香 川 信 久
〃	門 孝 幸
〃	浅 野 博 海
代 表 監 事	高 野 勇
監 事	三 谷 新 吉
〃	島 野 勝 司

「養殖漁場現場体験会」開催

「養殖漁場現場体験会」(香川県漁連主催)が8月5日(月)庵治漁協の魚類養殖漁場において開催され、サマーチャレンジイン屋島(香川県屋島少年自然の家主催)に参加している県内の小中学生54名が普段なかなか見ることのできない養殖現場を見学した。この体験会は、県漁連が事業主体となり推進している養殖生産物品質安全普及事業の对外広報対策の一環として開催されたもので、養殖現場の見学を通して、養殖漁業に対する知識の向上を図ると共に、養殖魚の品質・安全性について正しい理解と認識を深めてもらうことを目的に毎年開催されている。

当日は、午前7時に少年自然の家棧橋を出港し、庵治漁協嶋野組合長のハマチ養殖漁場に向かった。漁場に到着後、餌を待ちかねたように生け簀の中でグルグル回るハマチに、生餌と配合飼料を混合したモイストペレットが投餌されると、激しく水しぶきをあげて摂餌するハマチの迫力に子供達は圧倒されているようであった。また、子供達からは「こんなにすごいとは思わなかった」「どんな餌をあげてるの」「何匹位いるの」等の多数の感想・質問が飛び出すなど好評であった。



ハマチ投餌を見学する児童

帰港後に、県漁連職員より養殖漁業の歴史や産業としての重要性、養殖魚の安全性について説明された後、野外炊事場に移動して昼食に用意されたハマチ・ヒラマサ・マダイの調理体験をした。まず、魚調理講習としてマダイの三枚卸しの実演が行われ、続いて子供達はウロコ落としに挑戦した。経験があるのが難なくウロコを落としていく子供、さらに三枚卸しに挑戦しようとする子供、気持ち悪そうにしている子供と魚に触れた反応は様々であったが、普段魚に触れる機会の少ない子供達にとっては忘れられない貴重な体験であり、夏休みの楽しい思い出となったようだ。

「海辺の教室」開催

ふるさとの海の環境保全と地元漁業への理解を深めるため、「海辺の教室」が去る7月28日に観音寺市観音寺町の伊吹魚市場で開催され、市内の小学4・5・6年生達が水産業の果たす役割や環境保護の重要性を学んだ。

同教室は、観音寺・伊吹・室本の3漁協と市で構成する観音寺市水産振興連絡協議会が主体となって毎年開催され、本年度で18回目を数えた。

本年度は、市内の6小学校の児童と先生、保護者ら約100人が参加した。

教室では、「底曳網」や「定置網」など燧灘で行われている漁法の話をはじめ、魚の種類や食卓に届けられるまでの流通経路を説明したほか、私達の環境では、生活廃水等を用いた実験(水の汚れを示すCODパケットテスト)が行われるなど、海の環境の大切さが紹介され、真剣な表情で学んでいた。

この他、タイのすくい取りが行われ参加した子供たちは大変満足そうであった。



伊吹魚市場での学習風景